2022年度

国　　語

最初に、以下の注意事項をよく読んで下さい。

1．問題冊子は監督者の指示があるまでは開かないで下さい。

2．監督者の指示にしたがって、解答用紙に**受験番号**と**氏名**を記入してください。問題冊子は**受験番号**のみを記入して下さい。

3．試験問題の内容に関する質問には応じません。それ以外の用事があるときは、手をあげて下さい。

4．受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出て下さい。

5．問題冊子および解答用紙は持ち帰らないで下さい。

6．字数制限のある問題については、句読点なども１字として数えるものとします。

受験番号	

HJ 2月10日

【一】 次の各問いに答えなさい。

問一、 次の①～⑥の傍線部のカタカナを漢字に直し、漢字には読みがなを書きなさい。

① 電車がチエンしているようだ。　② ザセツを味わい成長した。

③ 家庭的なフンイキの店だ。　④ 梅の花の香りがタダヨう。

⑤ 祖母の趣味は漢詩の吟詠だ。　⑥ 時間にソクバクされている気がする。

問二、 次の中から「羊頭狗肉（くにく）」と似た意味を表すものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア、くさっても鯛（たい）　イ、有名無実　ウ、金字塔

エ、月夜にちょうちん　オ、看板倒れ

問三、 次の（　　）には「その人の能力にふさわしい仕事に就かせる」という意味の四字熟語が入る。その四字熟語を漢字で答えなさい。

文化祭の成功のため、文化祭委員一人ひとりの（　　）を考えた。

問四、 次の（　　）に適切な漢字二字を入れ、慣用句を含む文として完成させなさい。

① ピアニストと歌手が、あうんの（　　）で演奏する。

② 予想もしないような記録が出たので、目を（　　）させた。

HJ 2月10日

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〔優花は、三重県で暮らす高校三年生。家族はパン屋を経営しており、自宅の一階が店になっている。大学受験を控え、大晦日も三階にある自室で勉強をしていたところ、両親から大事な話があるから居間に来るようにと言われる。学校で面倒を見ているが、冬休みの間だけ優花が預かった犬のコーシローを部屋に残し、優花は二階の居間に下りてきた。〕

三階からコーシローの吠える声が聞こえてきた。

兄が舌打ちをした。

「うるせえな。いつまで預かるんだよ」

「三日まで。ごめん、やっぱ上にいる。コーシロー、一人で寂しがってるんだと思う」

いや、優花、と父が声をかけた。

「進路の話をしよう。忙しくて話ができんかったが、三者面談のことはお母さんから聞いとるから。犬、二階に連れてくるか。たしかに寂しそうな声や」

京都でパン職人の修業をした父は、くつろいでいると、どこのものとも言えないやわらかな方言になる。

祖父は「頼りない」と言って、その話し方を嫌うが、今日は黙ったままだ。

父が三階を見上げて、祖父母に声をかけた。

「なあ、今日ぐらい、犬をここに連れてきてもいいやろう？　優花のために」

祖父が無言で首を横に振り、祖母が［ 1 ］顔をしかめている。

「やだやだ、けだものと一緒だなんて。あの犬が来てから、優花が獣臭い」

「そんなに臭う？　お祖母ちゃん」

気をつけているのだが、やはり臭うのだろうか。

母が牛乳をコーシロー用の器に入れた。
「ワンちゃんはおなかすいてるのかな。ちょっと見てきます」
器を持った母が三階に上がっていった。
「じゃあ、先に話をしていよう。優花、頑張ったなあ」
昨日、母に渡した模試の結果を、父がこたつの上に出している。
今回の模試から国立大学の志望校のランクを上げ、戦前からの歴史がある名門校を入れた。その大学の合格判定はB。前からの志望大学はすべてA判定。一学部だけ志望校に入れている東京の難関私大の結果もB判定だ。
父が祖父に模試の結果を渡した。
「ほらお祖父ちゃん、ここ。ABCDEの五段階だよ。優花は前まではBやCばっかりやったのに、ほとんどAとB。早稲田もB判定になってる。前はDだったのに」
「私、もしかして早稲田も受かるかも。文系三教科だけなら、結構いい線いくんだ」
「見ても、[2]わからん」
祖父が模試の判定表をこたつに放り投げた。
「早稲田？　男ならともかく、女の子が東京の私立に行ってどうするんだ」
「別に私、行くなんて言ってないやん。でも……受けるだけ受けてみてもいい？　記念に」
「行きもしない大学を受けてどうするんだ」
「どこまでやれるのか見たいっていうか。わかってるよ、お祖父ちゃん。家から通えるところしか行けないって」
①模試の結果に優花は目を落とす。
「でもさ、普通、孫の成績が上がったら、ほめてくれたって……」
「お前は人にほめられたくて勉強してるのか」
「そうじゃないけど」

HJ 2月10日

「お祖父ちゃん、優花にそんなにつらく当たらんでも。お父さんは立派やと思ってるぞ、優花のこと。鼻が高い。お祖父ちゃん、ほら飲んで」

徳利を持ち上げ、父が祖父の杯に酒を注いだ。勢いあまってこぼれた酒を祖父が口から迎えにいき、チュッとすすった。

「ああ、しみる……。いいか、優花。ちょっとばかし勉強ができるからって、a テングになったらいかんぞ」

父さん、と言ったあと、父が「お祖父ちゃん」と言い直した。

「優花はテングになんてなってへん」

「なったらいかんって注意しとるだけだ」

祖父がうまそうに酒を飲むと、口元をぬぐった。

「いいか、世の中には学校の勉強なんかより、もっと大事なモンがある。お兄ちゃんを見てみろ。中学、高校と荒れてたけど、今じゃこの家の長男として［ 3 ］うちの商売を支えてる。勇、ほら、お前も一杯飲め」

「俺、ポン酒[注1]よりビールのほうがいいんだけど。まあいいか」

兄が祖父の隣に座り、酒を飲み始めた。

祖父、父、兄の男三人が並んで飲む姿を嬉しそうに眺めていた祖母が、みかんをむき始めた。

「ほら、優花はおみかん食べな。肌がきれいになるから」

食べたくはないが、祖母がむいてくれたみかんを黙って口にする。奥歯で噛みしめるようにして食べると、冷たい汁が口のなかに広がっていった。

おいしいやろ、と祖母が言い、優しく目を細めた。

「東京で［ 4 ］一人でご飯食べるより、一家そろってみんなで食べたほうがうまいに決まってら」

そりゃそうだ、と祖父がうなずいた。

「何はなくとも家が一番。みんなで食べればなんだってうまい」

三階からコーシローの吠え声が聞こえた。母が「静かに、静かにね」となだめている。

階下を必死で気遣うその声に、②怒りがこみあげてきた。
「そうかな？」
みかんの薄皮を口から出し、優花はティッシュにくるむ。
「みんなで食べるとおいしいって思ってるの、お祖父ちゃんとお祖母ちゃんだけだったりして。そりゃ楽しいよね。いつもご飯食べながら、私やお母さんに言いたい放題言って」
祖母がため息をついて、首を横に振った。
「おお、こわ。誰に似たのか、角が立つことを言う」
「どうしてお祖父ちゃんもお祖母ちゃんも、お兄ちゃんばっかりほめて、私には嫌味を言うの？」
「こらこら、優花、お祖母ちゃんも」
祖母が何か言おうとしたのを父が制した。
「カッカしない、大晦日なんだから、楽しくやろうや。優花が角が立つことを言うだって？　誰に似たかって、それは明らかにお祖母ちゃん似だ。③みんな黙ってや。お父さんは優花と進路の話をするんやから」
「お父さん、俺、その話の前に優花に言いたいことがある。お兄ちゃんばっかりほめてって、優花、お前はほめられるようなこと何かしたか？　自分で稼いだこともないくせに記念受験だなんて、金遣うことばっかり言って」
「そんな言い方ないでしょう。お兄ちゃんだって高校生のときは稼いでなかったやん！」
おっ、オリンピックの選手が出とる、と祖父がテレビのボリュームを上げた。
今年を振り返る映像のなかに、ソウルオリンピック[注2]で活躍した日本選手が映っている。
「高校球児もそうだが、スポーツ選手ってのは実に清々(すがすが)しい。見ろ、優花。額に汗して励んだ奴(やつ)らは、みーんないい顔しとる」
「お祖父ちゃんは、どうしてスポーツ選手はほめるのに、勉強に励んでる孫には嫌みを言うの？　勉強を頑張る子もスポーツを頑張る子も一緒じゃない」
兄が日本酒をあおると、杯をソファテーブルに打ちつけた。

HJ 2月10日

「可愛(かわい)くねえな。いいか、優花、教えといてやるよ。社会に出れば勉強ができるのと頭がいいってのはまったく別モンだからな。納品先にもおるわ。いい大学出てても、まったく使えねー奴」

「その人、単にお兄ちゃんとそりが合わないだけなんじゃない？　それに言うほど私、賢くないですから。うちのレベルが低いだけ」

祖父の猪口(ちょこ)に酒をついでいた父が手を止めた。

そうやな、と父が寂しそうに笑った。

「お父さんは中卒やし。お祖父ちゃんも小学校しか出とらん。④鳶(とんび)が鷹(たか)を生んだようなもので、優花の気持ちはなかなか理解してやれんかもしれん……」

「違う、そんなつもりで言ったわけじゃ……」

テレビの音がやけに大きな音で響く。父がリモコンを手に取り、テレビを消した。

階段を下りてくる足音がして、母がリビングに入ってきた。

「どうしたの、静かになって。テレビは？」

祖母が二つ目のみかんを手荒くむきだした。爪が引っかかったのか、わずかにしぶきが上がっている。

いやね、と祖母が（　i　）をとがらせた。

「優花がどうしても東京に行くって言うから」

「そんなこと言ってない！」

あなた、と母が非難するような目で父を見た。

「きちんと話してくれるって言ったのに」

「そうなんだよ、優花」

父がこたつのわきから封筒を出した。

「お父さんは東京の大学を受けるのは賛成や。その話をしたくて呼んだのに、みんなが茶々入れるから」

えっ、と声をもらして、優花は父の顔を見る。
父が封筒から「受験生の宿」と書かれているパンフレットを出した。
「お母さんに詳しく話を聞いてな。優花のその、希望学部、そいつの試験日も調べて、昨日、受験生用のホテルも取ってきた」
交通公社のロゴが入った封筒を開けると、新宿のホテルの予約票が入っていた。
「お父さんからのお年玉や。新幹線の回数券も入れといたぞ」
「なんで回数券……」
「受かったら部屋探しとか、しなくちゃならんやろ。だめならお母さんと東京ディズニーランドに行けばいい。無駄にはならんよ」
兄が鼻を鳴らすと立ち上がった。
「なんだよ、昔っからお父さんは優花に甘い！」
「勇には車を買ってやった。優花は車の代わりに大学へ行くんや。この話はこれでおしまい。みんな、優花がくじけるようなこと言うな」
⑤父からもらった封筒を両手で持つと、涙がこぼれ落ちた。
「お父さん、ありがとう……ありがとう」
「泣かんでいい、ほら、テレビまた見るか」
リモコンを取り、父がテレビの電源をつけた。祖父はごろりと横になり、祖母は不機嫌そうにみかんを食べている。
紅白歌合戦は終わり、「ゆく年くる年」が始まっていた。

（伊吹有喜『犬がいた季節』〈双葉社〉より）

注1・ポン酒……日本酒。
注2・ソウルオリンピック……一九八八年、韓国のソウルで行われたオリンピック。

HJ 2月10日

問一、 1 ～ 4 に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。（ただし、同じものは使えない。）

ア、しょぼしょぼ　イ、じりじり　ウ、こっそりと　エ、さっぱり　オ、しっかり　カ、はっきりと

問二、 波線部**a**・**b**の本文における意味として適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

a「テングになったら」

ア、あざむいたら
イ、あなどったら
ウ、うぬぼれたら
エ、おこたったら
オ、もくろんだら

b「茶々入れる」

ア、騒がしくする
イ、反対する
ウ、混乱させる
エ、邪魔をする
オ、迷惑をかける

問三、（　**i**　）に入ることばとして適切なものを漢字一字で答えなさい。

問四、 傍線部①「模試の結果に優花は目を落とす」とあるが、このときの優花のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、順調に成績が上がっているので、このままいけばどの大学にも受かるという確信を持っている。
2、女の子だという理由だけで東京に行くことを反対され、理不尽に感じてやるせなくなっている。
3、難関私大に受かることで祖父を見返したいと思い、もっと頑張ろうと気合いを入れ直している。
4、模試の結果がいくらよくても、東京の大学には行くことは許されないので絶望感を抱いている。
5、優花が努力していることに興味も持たず、成果の評価もしてくれない祖父に不満を感じている。

問五、 傍線部②「怒りがこみあげてきた」とあるが、優花はどのようなことに対して怒りを感じているのか。適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、犬がいることを祖父母が露骨に嫌がっているうえに、母ばかりが犬の世話をしなければならなくなっていること。
2、いつも優花や母が祖父母に言いたいことも言えずに遠慮しているうえに、進路まで自分の望むようにできないこと。
3、普段から祖父母に差別され見下されているうえに、大晦日でさえも自由に行動することが許されていないこと。
4、祖父母が優花のことをほめずに兄ばかりほめているうえに、優花の進路の話よりも食事に関心を持っていること。
5、母が祖父母に対しては非常に気を遣っていて、自分の娘よりも祖父母のことを優先しているように感じられること。

問六、 傍線部③「みんな黙ってや」とあるが、みんなが黙った状態であることを表現した一文を文中から探し、初めの五字を抜き出しなさい。

問七、 傍線部④「鳶が鷹を生んだようなもの」とあるが、父はこのことばでどのようなことをたとえているのか。三十字以内で書きなさい。

問八、 傍線部⑤「父からもらった封筒」とあるが、これについて説明した次の文の空欄【 1 】・【 2 】に入ることばを、【 1 】は九字で、【 2 】は五字以内でそれぞれ文中から抜き出しなさい。

【 1 】ために必要なものが入った、父からの【 2 】。

問九、 本文中から読み取れる、父の人物像として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、くつろいでいるときは誰に対しても物腰が柔らかいが、家族を傷つけるようなことばを発した者に対してはくつろいでいるときとは対照的な様子を見せる人物。

2、優花の気持ちを理解してあげようと努力しつつも、優花を甘やかそうとしない祖父母の考え方にも耳を傾けることで、家族内のいざこざを防ぐことができる人物。

3、優花の進学について意見が分かれた家族をまとめるために、一人ひとりの考えをしっかりと受け止めて全員が納得のいく方法を示せる、一家の大黒柱である人物。

4、考え方の異なる祖父母と優花の間に入り、もめるのを避けるために気を遣う一方で、娘の気持ちに寄り添い家族に自分の考えをしっかりと伝える面もある人物。

5、家の中で窮屈な思いをしている優花のことを心配して、優花の悩みに耳を傾けようとする優しさや、好き勝手に振る舞う祖父母をたしなめる頼もしさがある人物。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

普段から「感情」と「気分」を明確に区別して言葉を使い分けている人はなかなかいないでしょう。ですが、なんとなく区別はあると思います。[1]、山道を歩いていてヘビが出てきたとき、「不安を感じた」と言うよりも「恐怖を感じた」と言う方がふさわしく思えるのではないでしょうか。これに対し、まだ山に登っていない段階で「山道でヘビが出てきたらどうしよう」と考えるときには、恐怖というよりも不安を抱いていると言うのがふさわしいように思われます。そうだとすれば、たとえ感情と気分の違いを明確に説明できなくとも、私たちは何かしら区別をつけていると考えられるでしょう。

他の感情や気分についても、何となく区別はありそうです。怒りは感情ですが、イライラ(苛立ち)はどちらかといえば気分と言った方がいいように思われます。同じく、悲しみは感情ですが、憂うつは気分だと言えないでしょうか。

とはいえ、いくつかの感情には対応する気分があるように思えます。先ほど挙げた、怒りとイライラ、悲しみと憂うつは、そうした対応関係にあると言えそうです。同じように、恐怖の感情に対応する気分として不安が、喜びという感情に対応するものとしてウキウキ(高揚感)が挙げられるのではないでしょうか。

[2]、感情と気分はどういった点で分けられるのでしょうか。恐怖と不安は似たものですが、何が二つを分けるのでしょうか。以下では、感情と気分を分ける基準としてよく挙げられるものを説明しましょう。

怒りや恐怖、喜びや悲しみは強烈な心の状態として経験されていますが、イライラや不安、ウキウキや憂うつは弱いものとして経験されているという考えです。

ですが、これはあまり良い区別とは思えません。というのも、強い気分もあれば弱い感情もあると考えられるからです。たとえば、電車で他人に足を踏まれたときの怒りはそこまで強くないのに対し、仕事が手につかないほど強いイライラもあるでしょう。非常に強い不安を感じることもあれば、ちょっとだけ怖かったという場面もあります。そのため、経験される強さで感情と気分を分けるのは良い方針ではないでしょう。

気分と感情は《　A　》が違うという考えもよく挙げられます。たとえば、怒りは瞬間的なものですが、イライラは一日中

続くかもしれません。こうした点から、気分は長続きする感情のことだと言われる場合もあります。

ですが、これもうまくいきそうにありません。なぜなら、長続きする感情もあると考えられるからです。

たとえば、自分の大切な人が亡くなって何日も何ヶ月も、何年も悲しみを抱いているということもあるでしょう。そのときには憂うつという気分もかかえていると言えそうですが、同時に、涙を流すほど悲しみを抱いている場合もあるでしょう。

3、余命が少ないと医者から宣告された人は、憂うつや不安にもなるでしょうが、かなり長いあいだ死の恐怖を感じることもありそうです。そのため、持続時間で感情と気分を分けるのも良い方針ではないでしょう。

次に、①気分は感情の傾向性だという考えを取り上げましょう。それによると、気分は感情を抱きやすくなる状態です。具体的に言うと、イライラとは怒りが発生しやすくなっている状態で、憂うつは悲しみが発生しやすくなっている状態だということです。

この考えは他と比べてちょっと難しいところがあります。というのも、この基準を理解するためには、②「傾向性」という哲学の概念を理解しなければならないからです。さらに、結論から言ってしまえば、この基準は、ちょっと難しいのに結局うまくいきそうにありません。「難しいけど結局ダメそうな考えを解説するなんて意味ないじゃん」と思われるかもしれませんが、たまにこの考えを支持する人がいるので、一応、どうダメなのか解説しておきましょう。また、「傾向性」は哲学でたびたび登場する重要な概念なので、この機会に理解しておいてもいいと思います。

傾向性の具体例としては、水溶性が挙げられます。水溶性とは「水に入れたら溶ける」という性質です。たとえば、砂糖や塩が水溶性をもっています。

注意してもらいたいのは、「水に入れたら溶ける」という性質は、水に入れられていない砂糖や塩がもっているという点です。砂糖が水に溶けるという出来事が実際に起こる(顕在化する)のは砂糖が水に入れられたときですが、水に入れたら溶けるという潜在的な特徴は、水に入れられていない砂糖に備わっているものです。

傾向性の他の例としては、脆さが挙げられるでしょう。薄いガラスのコップは机から落としたら壊れてしまうでしょうが、脆さという性質は机の上にある状態のコップに備わるものです。壊れるという出来事が実際に起きていなくとも、ガラスのコップ

は潜在的に壊れやすいものです。他にも、通電性、可燃性、毒性などが傾向性の例として挙げられるでしょう。

以上を踏まえて、感情と気分に戻りましょう。気分は感情が発生する傾向性だという考えにしたがうと、気分は潜在的な感情だということになります。

この考えがうまくいかないのは、次を見落としているからです。それは、気分は潜在的なものではなく、感情と同じく実際に心に発生している(顕在化している)状態だということです。イライラは特定の条件のもとで怒りとなる潜在的な感情ではありません。イライラも怒りと同じく、すでに心に発生しているものとして私たちに経験されています。

確かに、イライラしているといつもより怒りやすくなる、憂うつになっていると普通よりも悲しみが発生しやすくなっている、というのは正しいかもしれません。ですが、イライラも憂うつも、現に心に発生しているものであって、潜在的な状態ではありません。そのため、気分は感情の傾向性だという考えは、感情と気分を分ける基準としてふさわしくないと考えられるのです。

最も見込みのありそうな基準は、感情と気分は対象に違いがある、というものです。

まず、感情の対象は明確であるように思われます。たとえば、私たちは他人から文句を言われたら怒ります。そのとき、怒りが向けられている対象が他人(もしくは他人が言った文句)であることは明らかでしょう。また、私たちは、財布をなくしたことを悲しんだり、試験に合格したことを喜んだり、目の前のヘビを怖がったりします。[4]、「何について」感情をもっているのか明確なのです。

これに対し、気分の対象は明確ではありません。なんとなくイライラしたり、ウキウキしたり、不安であったり、憂うつであったりします。「何について」の気分なのか不明瞭なのです。

とはいえ、③「気分には対象がない」とか「気分は何にも向けられていない」と言ってしまうのは早急です。ここで、志向性を思い出してください。それは、心の状態には必ず対象があるというものでした。何かを見ているときには見られているものがあり、考えているときには考えられているものがあります。怒りを抱くときにはその【 X 】となる対象があります。

そして気分も心の状態の一つです。そうであるなら、気分にも志向性があり、気分にも何かしら対象があると考えるべきでしょう。そうしなければ、気分だけは他の心の状態とは異なり志向性をもたない特殊なものだということになってしまいます。

もちろん、気分は特殊な状態だと主張する方針がとれないわけではありません。ですが、その前にまず本当に対象がないのか考えてみるべきでしょう。対象が見つかれば、気分だけは特別な状態だと言う必要がなくなり、心の状態を志向性によって統一的に理解できるようになります。

では、④気分の志向性は何に向けられているのでしょうか。それを理解するためには、気分は何の原因もなくランダムに生まれるものではないという点に注目するのがいいでしょう。たとえば、朝起きて窓を開け、雨が降っているのを見て(または、降りそうな曇りの様子を見て)憂うつな気分になることがあるでしょう。異常に暑い真夏では、眩(まぶ)しすぎる日差しで憂うつになることもあります。

雨や眩しすぎる日差しは、その日の行動に制限をかけます。雨の場合、服は濡(ぬ)れるし、傘を持たなければいけないので片手が塞がるし、道路はいつもより混むし、自転車は滑る危険が多くなって乗れないし、等々の理由から、晴れの日と同じように行動することはできません。また、異常に暑い日は、熱中症になる【　Y　】が高まるので、長時間外に出られず、また、水分や塩分をたくさん補給する手間がかかります。

ここからわかるのは、憂うつになるときには、いろいろうまくいっていないということです。重要なのは、「いろいろ」という点です。悲しみを抱くときには、親しい人が亡くなったなど個別的な物事が対象となっていますが、憂うつになるときにはいろいろな物事がうまくいかなかったり失敗したりしているのです。同じように、怒りは特定の人から言われた特定の文句などを対象としますが、イライラはいろんな物事を対象としているでしょう。「なんとなくイライラする」ではなく「いろんなものにイライラする」と言う方が正確であるように思われます。

まとめると次のようになります。感情は、個別的で具体的な対象に向けられています。他方で気分は、いろいろな物事に向けられています。感情は直近に起きた個別的な物事を対象としていますが、気分は長期間に起こった複数の物事をまとめて対象にしていると言えるでしょう。

（源河亨『感情の哲学入門講義』〈慶應義塾大学出版会〉より）

問一、 1 ～ 4 に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。（ただし、同じものは使えない。）

ア、しかし　イ、なぜなら　ウ、つまり　エ、では　オ、たとえば　カ、また

問二、 二重傍線部 **a**・**b** と同じ用法のものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

a「ない」

ア、二月なのに今日はそれほど寒くない。
イ、騒音が激しすぎて読書を楽しめない。
ウ、突然呼び出してしまって申し訳ない。
エ、すぐに宿題をやらなければならない。
オ、このような都会に野生動物はいない。

b「ほど」

ア、十五分ほど歩けば海が見えるはずだ。
イ、聞けば聞くほど不思議な話に思える。
ウ、飛び上がるほどのうれしい気持ちだ。
エ、猫ほどかわいいものはないと感じる。
オ、ご自愛のほどをお祈り申し上げます。

問三、 波線部「たまに」が修飾する部分を文中から一文節で抜き出しなさい。

問四、【 **X** 】・【 **Y** 】に入ることばとして適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

X ア、白羽　　イ、諸刃（もろは）　　ウ、矢面　　エ、矛先　　オ、頭角

Y ア、コスト　　イ、メリット　　ウ、ビジョン　　エ、ピーク　　オ、リスク

問五、本文には次の一文が抜けている。どこに入れたらよいか。この直後にくる五字を文中から抜き出しなさい。

最初に取り上げるのは、気分は弱い感情だという考えです。

問六、≪ **A** ≫に入ることばを、五字以内で文中から抜き出しなさい。

問七、傍線部①「気分は感情の傾向性だという考え」とあるが、この考えに対する筆者の意見をまとめた次の文の空欄【 **1** 】・【 **2** 】に入ることばを、【 **1** 】は三字で、【 **2** 】は十字でそれぞれ文中から抜き出しなさい。

気分を【 **1** 】な感情と捉える考え方だが、実際の気分は【 **2** 】であるため、感情と気分を区別する基準にはならない。

問八、 傍線部②『傾向性』という哲学の概念」とあるが、この説明として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1、特定の出来事が発生することで見られる特徴は、出来事が発生する以前に備わっているものであるという考え方。
2、あるものに備わっている特徴は、特定の出来事が発生しなければ特徴として認めることができないという考え方。
3、特定のものにだけ備わっている特徴は、それによって発生する可能性のある出来事を限定しているという考え方。
4、何かの出来事を発生させるために必要な特徴は、特定の条件がそろわなければ見ることができないという考え方。
5、ものにある何かの特徴は、それが見える出来事が発生することでそのものに備わっていると言えるという考え方。

問九、 傍線部③『気分には対象がない』とか『気分は何にも向けられていない』と言ってしまうのは早急です」とあるが、それはなぜか。「～から。」に続くように文中のことばを用いて四十字以内で答えなさい。

問十、 傍線部④「気分の志向性は何に向けられているのでしょうか」とあるが、この問いに対する答えとなることばを、十字以上十五字以内で文中から抜き出しなさい。

問十一、 本文の内容と合致するものを次の中から二つ選び、番号で答えなさい。

1、恐怖や不安を感じているときは、何に対して恐怖や不安を抱いているかという感情の対象が明確になっている。
2、感情と気分の区別を明確につけることができないのは、感情と気分が対応関係にあることが理由の一つである。
3、感情は瞬間的なものであり、気分は長続きする感情のことなので、気分と感情を同時に経験する可能性はない。
4、水溶性と脆さは、哲学における重要な概念である傾向性の例として理解しておかなければならないものである。
5、ヘビを見たときの心の状態と、ヘビの出現を案じるときの心の状態は、異なるものとしての区別が可能である。
6、経験の強弱で感情と気分を分けてしまうという考え方は、人によって基準が異なるので良い区別方法ではない。
7、感情の対象より理解しにくい気分の対象については、気分がどのように生まれるかという視点で考えるとよい。

国語

解答用紙

【一】

問一 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

問二

問三

問四 ① ②

【二】

問一 1 2 3 4

問二 a b

問三

問四

問五

問六

問七

問八 1 2

問九

【三】

問一 1 2 3 4

問二 a b

問三

問四 X Y

問五

問六

問七 1 2

問八

問九

問十

問十一

から。

受験番号	

氏　名	フリガナ

得　点

HJ 2月10日